

サイバーセキュリティヒーロー プログラム指導の手引き

プログラム指導の手引き



プログラム概要

仮想（デジタル）と現実（リアル）が混ざり合う、今の子どもたちが主役となる社会がやってきます。インターネットには楽しさや便利さもあれば、危険なことや守らないといけないことを理解することが重要です。

世界中の子どもたちに「ネットリテラシー」を学ぶためのプログラムを提供するパロアルトネットワークス社とともに、これからの社会を生きるために必要な術を体験しましょう。

目的・ねらい

- 関連用語を知ることで、インターネット社会に興味を持ってもらいます。
- 手紙やネットでの言い合いが、学校や活動での言葉での受け取り方と違うことを感じてもらいます。
- スカウトが成人を迎えるころを想像して、自由に発言してもらいます。
- インターネットの両方の面を知ってもらい、上手に活用してもらうための素養を身につける準備をしてもらいます。
- **能力開発**：情報収集や探求心、相手を思いやる気持ち、ルールと共に考える力

活動データ

時間：30分～60分

場所：屋内 屋外 / 都市 自然

人数：個人 グループ 大人数

年代：7-10 11-14 15+

BVS CS BS VS RS

費用：無料 資料代 実費

SDGs：



下準備

備品：スマートフォン

パソコン

設置：インターネット環境

国民のための情報セキュ

リティサイト
(総務省)



サイバーセキュリティヒーロー プログラム指導の手引き



指導者の指示内容

1. 細目 1: 指導者または保護者と共に、インターネットで用語を調べます。複数の情報源から調べる大切さも伝えます。
2. 細目 2: サンプルとして嫌な言葉が書かれた手紙を用意し、スカウトに見せたときの気持ちを互いに発表します。
3. 細目 2: 対面での言い合いやケンカと違い、インターネットでは発言者が分からない場合があることを伝え、どんなことに注意する必要があるか伝えます。
4. 細目 3: コンピューターの世界の 10 年後の未来を想像してもらいます。正解は無いため、さまざまな方向への拡がりを楽しみます。
5. 細目 4: インターネットの良い面・悪い面を組や個人ごとに考えて、より良い使い方を自由に発表してもらいます。
6. 細目 4: インターネットの発達で今までできなかったことが出来るようになったこと、これまでになかった問題が起きていることを話し、まとめとします。

ステップアップ

◎ ワークブックの活用

- セキュリティの意味を伝える際に、トランプを活用したパスワード解読ゲームやしっぽ取りのようなパスワード保護ゲームを活用することができます。
- 嫌なことを書かれた時の気持ちやインターネットの危ない点の説明で、ネットいじめ撲滅ゲームを活用することができます。

◎ より深い理解に向けて

- パロアルトネットワークス社ではサイバーセキュリティに関する子どもを対象としたプログラム資料を公開しています。
- ゲームや Youtube の視聴時間のルールを子どもと一緒に作るきっかけになります。
- セーフ・フロム・ハームの観点で相手を思いやる気持ちを持つヒントとしてみてください。

